

文化財 NEWS 速報

貝が見えた!三度目の調査へ 日暮里延命院貝塚見つかる



写真1 本発掘調査風景



写真2 貝層(左) 縄文時代の土器片を多く含む層(右)



写真3 出土した貝、動物の骨など



写真4 区内で初めて出土した石棒(部分)

荒川ふるさと文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL03(3807)9234
登録(05)0061号-02

ご存知ですか? 日暮里延命院貝塚 東京では、モースが発見した大森貝塚について二番目に古く、「日暮里村ノ貝塚」として報告された、考古学史上大変有名な遺跡です。ところがその後、100年余り、所在がわからずになりました。しかし、昭和62年(一九八七)、西日暮里三丁目のビル建設現場の工事中にこの貝塚は再発見され、発掘調査を実施しました。当時、街中から発見された貝塚として地域の人も発掘に参加し、新聞報道されるなど話題になりました。その後、平成19年には、昭和62年の調査地に隣接したマンション建設に伴う本発掘調査を行いました。

今回の調査地点 今回見つかった貝塚は、これら2カ所の延長部分と考えられます。調査地点は、文化財保護法に基づく、周知の埋蔵文化財包蔵地である諏訪台・日暮里延命院貝塚遺跡の南西付近にあり、谷中ぎんざに続く夕やけだんだんをおりた左手の区境にあたります。事前の調査で、幅1.5m×長さ10m(面積15㎡)の長方形のトレンチ(試掘溝)を、東側と西側に2カ所開けたところ、西側からおびただしい数の貝が発見されました。土の層は5層に分けられ、私たちが立っている地表面から遺構確認面(縄文時代の人びとが生活していた層)までの深さは、浅いところで1.3m程です。その後、縄文時代の土器片(写真1)を多く含む層と、多量の貝類を含む貝層を確認しています(写真2)。この他、動物の骨や石棒なども見つかりました(写真3・4)。

貝塚の調査 貝塚の貝層の中からはかつて使用された遺物が豊富に出ています。それらは縄文の人びとが食べていたもの、道具、装飾品などで

生活や文化だけでなく、当時の環境など、たくさんのお情報を私たちに与えてくれます。

これから発掘・遺物の分析など時間をかけて調査が進みます。新たな発見をまたお知らせします。(八代和香子)

XI

過ぎゆく季節へのたより

鎌槍の名手、巨大な自然石の下に眠る
旅川鉄岳の墓

春の彼岸に、日暮里の養福寺（西日暮里三丁目）を訪れた。養福寺は、手入れの行き届いた庭で知られ、春は枝垂れ桜が楽しめ、諏訪台通りから境内に一步踏み込むと、赤い仁王門が迎えてくれる。また、著名人の菩提を弔う寺としても知られている。たとえば、博文館を開いた大橋佐平ら大橋一族、俳人の自堕落先生こと、山崎北華、そして檀林派初祖の西山宗因。檀林派歴代の句碑の中央にある梅翁花樽碑（区指定有形文化財）は梅翁塚とも呼ばれ、宗因の墓と言われている。

巨大な自然石の墓 江戸の墓石には、伊豆半島を産地とする伊豆石が使われることが多い。



写真1 旅川鉄岳の墓



写真2 「先哲像傳」
国立国会図書館デジタルコレクション

養福寺も同様のはずだが、墓域に入ると異彩を放つ墓が目飛び込んできた。伊豆石製の三段

の基壇の上に巨大な自然石が据えられており、何かの記念碑ではないかと見紛うばかりである。自然石の中央に大きな文字で「鉄岳墓」、その周りには経歴らしい文字が刻まれている。基壇には、天明二年（一七八二）八月、没後六十四年を経て孫の常倫が墓の整備をした際の銘文が刻まれている。

「鉄岳」さんのプロフィール この墓に眠る「鉄岳」とは、果たしてどんな御仁なのか？ 墓標の自然石は結晶片岩系のようで、刻まれた文字は読みにくい。俗名は「旅川矢（弥）右衛門」、槍術の関係者であることが読み取れた。調べてみると、槍術の旅川流を立ち上げた人物であることが判明した（『日本国語大辞典』『古事類苑』等）。

弘化元年（一八四四）の偉人の伝記を集めた本「先哲像傳」に、「旅川鉄岳」の項目がある。墓碑等の銘文と肖像画が掲載され、それによると「奥州藤原氏に仕えていた佐藤庄司元治の末裔で、小田井（現福島県白河市）の出。祖父は蒲生公の家臣。上京の際に大井川（現静岡県島田市）が洪水になった時、平然と川を渡る様を見た蒲生公が「旅川」（川を平地を旅するよう）に渡ったの意」と言われたので、旅川姓を名乗

ったという。鉄岳さんは槍術を宝蔵院流槍術のおろしみつまさ下石三正の下で学び、特に鎌槍で名をはせた。



写真3 仁王門と鉄岳先生廟前石灯籠

出羽鶴岡藩（現山形県鶴岡市）の酒井家に仕えたが、辞して流浪の旅の後、本郷御弓町（現文京区）に道場を開いた。弓馬、鎌槍を教授し門人は数千人。その名声は將軍の耳にも達した。晩

年、輪王寺宮（寛永寺住持職）公弁から「鉄岳」の号を賜った。享保四年（一七一九）、養福寺に葬られ、養子正府が墓誌を記した」とある。近年の研究から門弟に弘前藩士がいたことや藩邸に出入りしていたことが明らかになっている（注）。墓誌に刻むように鉄岳さんは、多くの門弟を擁したようだ。

仁王門前の灯籠 おなじみの仁王門とその前の灯籠。よく見ると「鉄岳先生廟前」と刻まれている。この灯籠は仁王門に添えられたのではなく、鉄岳さんの一周忌に二代目が門弟たちとともに墓前に建立したものであった。仁王門の寺養福寺は、江戸の槍術の名手が眠り、その偉業を伝える場であったといえよう。（野尻かおる）

（注）中野達哉「近世前期における江戸の牢人―弘前藩江戸日記―江戸町触の分析を中心に」（『駒澤史学』七九（二〇二二年））
※本コラム執筆に当たり、掲載許可、資料提供を頂きました。旅川家様に感謝申し上げます。

今日のこの人⑤ 大東京祭で顕彰された太田道灌

江戸城を築城したことでも有名な太田道灌。

「太田道灌サミット」の開催、大河ドラマ誘致活動など、道灌をゆかりとする自治体の間では、地域を盛り上げる活動が盛んになっています。荒川区でも道灌を観光資源としてPRする機運が高まっています。

ところでこの道灌、かつて大々的に顕彰されたことがあります。

祭典の主役として 舞台となったのは昭和31年（一九五六）10月に東京都主催で開催された大東京祭。同20年に終戦を迎え、復興を遂げた東京で全都をあげて行われたまつりでした。

まつりは開都五百周年記念と銘打たれ、15日間にわたって盛大に開催されました。50年前は長祿元年（一四五七）に当たる室町時代。開都とは、江戸城の築城を意味していま



写真1 山吹の里伝説の劇



写真2 道灌に扮した区長と武者行列



写真3 山吹の塚を訪れた区長一行



写真4 荒川区観光振興課パンフレット「太田道灌と荒川区」

す。つまり、築城を指揮した道灌が、まつりを盛り上げる主役として選ばれたのです。道灌は東京都の礎を築いたイメージキャラクターとして、都電荒川線の花電車に飾られた人形や、バッジや煙草のパッケージ等の記念グッズのモチーフになりました。

東京都庁と日本橋三越本店の二会場で行われた「大東京展」では、様々な展示品の中に道灌を祀る静勝寺（北区）の木造太田道灌坐像、道灌の菩提寺である大慈寺（神奈川県伊勢原市）の太田道灌画像等、道灌関連の資料も展示されました。

荒川区での道灌顕彰 まつりに併せて都内各自治体で、パレードや体育祭、各種コンクール等の記念行事を開催し、祝賀ムードを一層盛り上げました。この時、荒川区で開催された行事の一つとして「太田道灌顕彰会」があります。会場は昭和29年に開館したばかりの荒川区会館（現サンパール荒川）。古写真などからその様子を知ることができます。ステージ上では「太田道灌公尊儀」と掲げた祭壇を設けて盛大な法要が行われました。三

河島（現荒川区荒川）が伝承地とされている（『三河島町郷土史』）山吹の里伝説の劇もあり、少女が道灌に山吹の枝を差し出す有名な場面が演じられています（写真1）。

また、鷹狩り装束の道灌に扮した当時の荒川区長がお供を引き連れて区内をパレードをしています（写真2）。沿道には観衆が詰めかけています。武者行列は泊船軒（荒川七丁目）に設けられた山吹の塚にもお参りに訪れました（写真3）。

日暮里道灌まつり 平成30年、日暮里駅前に山吹の里伝説の少女像（「山吹の花一枝」）が設置され、「日暮里道灌まつり」の開催を機に、荒川区において道灌は再びクロージアアップされています。観光パンフレット（写真4）が制作され、道灌の紙芝居（三橋とら氏作）も披露されるなど、今や荒川区の観光の担い手になっています。当館では令和元年に企画展「あらかわと太田道灌」を開催し、展示解説図録（480円）を刊行しました。あらかわの太田道灌、今後とも注目です！

〈澤田善明〉

企画展こぼれ話⑩

絵葉書の紡績工場はどこから撮られた？

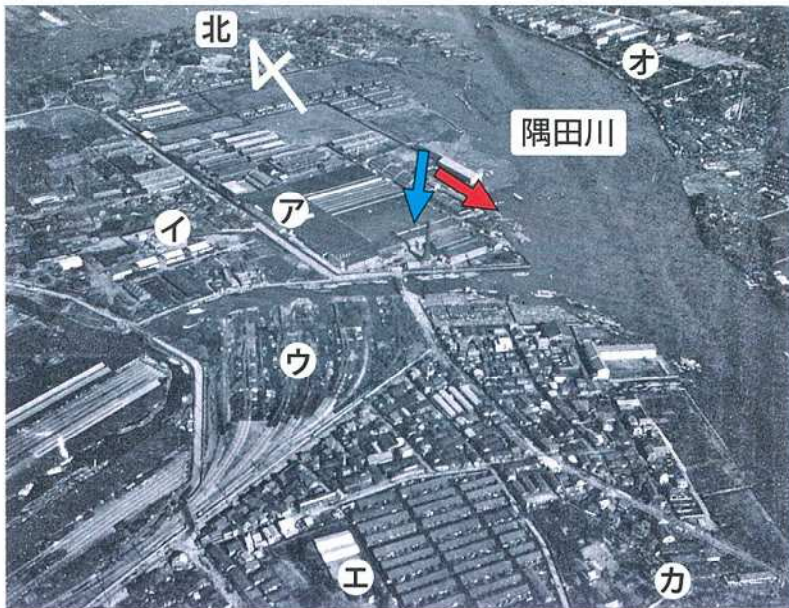


写真1 空撮写真「大日本紡績株式会社その他」(矢印及び記号は筆者加筆)

令和5年度の館蔵資料展「古写真でみる近代あらかわ」(2月17日〜3月31日)では、明治から昭和初期のあらかわの古写真を展示した。今回のこぼれ話は、南千住八丁目、汐入にあった紡績工場の絵葉書を取りあげたい。汐入を空から見たら、まずは汐入を空から見てみよう。左は隅田川沿いの鉄道施設・工場群(現南千住三・四・八丁目)の昭和初期の空撮写真で



写真2 絵葉書「東京紡績株式会社橋場工場船渠(明治四十一年五月撮影)」

ある(写真1)。「日本地理風俗大系Ⅲ」(新光社、昭和6年)に掲載され、東京の密集工業地帯を表す写真の一つとして紹介されている。写真上部中央、隅田川に面した一画(ア)が、大日本紡績株式会社である。大煙突が一本そびえ立つのが確認できる。その左側の区画(イ)は、東京毛織物株式会社及び日本石油株式会社隅田川油槽所である。中央の櫛の歯状の線路がある場所(ウ)は、隅田川貨物駅(現隅田川駅)。その下(エ)は千住瓦斯製造所(現東京ガス千住事業所)。隅田川を隔てて鐘ヶ淵紡績株式会社(現墨田区)の一部(オ)が見える。なお、右下の森(カ)が旧石浜神社社地である。



写真3 絵葉書「大日本紡績株式会社橋場工場」

真2)。明治20年(一八八七)の設立で、深川(現江東区)に本社工場があったが、明治41年、新たに南千住町大字地方橋場に橋場工場を建設した。絵葉書には「船渠(明治四十一年五月撮影)」とあり、工場構内の隅田川から引込んだ運搬用の船渠(ドック)を撮影したものである。ドックと大煙突 二枚目の絵葉書(写真3)は、同紡績会社橋場工場を俯瞰したものである。採光のための鋸屋根が連なり、左奥に大煙突が見える。手前の小舟が浮かぶ水路は、ドックであろう。

どこから撮影されたか 空撮写真を参考にする。注目すべきは、煙突とドックの位置である。一枚目の絵葉書は左手に建物がなく、奥が川に繋がっていることから、ドックの行き止まりから直結する隅田川方向を撮影したと考えられる(赤の矢印)。またもう一つの絵葉書は、手前にドック、左に煙突が見えることから、ドックの手前から南の建物群を撮影したと考えられる(青色の矢印)。このように、地域のランドマークであり近代の汐入を築いた大工場は、絵葉書の中に古写真という形で記録されてきたのである。

〈高柳吟音〉

あらかわ
タイムトンネルズ 34

尾久の古墳カーブ

去る10月29日、地域史講座尾久編を実施した。初回は尾久図書館と合同企画の史跡めぐりで、あらかわ遊園方面を散策した。

その際、通った道に奇妙な半円を描く道路があった(図1)。ここは「上尾久村絵図」(尾久八幡神社蔵。区指定有形文化財)に「塚」と書かれている場所だ(図2)。江戸時代、「塚」すなわち古い墳墓として認識された場所である(中世の塚の可能性もあるが、ここではさしあたり「古墳」とする)。つまり、この半円を描く道は、円墳を避けるように南側の縁辺部に沿って設けられた道だったのではないか。こうした道は「古墳カーブ」と名付けられている(大山顕「細長すぎる大阪市領土と古

墳カーブの謎」(デイリーポータルZ <https://dailyportalz.jp/kiji/150312192969/>)。中谷礼仁「先行形態論」(『セヴェラルネス+』、鹿島出版会、二〇一一年)も参照。

どこかの段階で「古墳」は削られてしまったのである。現在は特段小高い訳でもなく、道の両側は住宅である。ドーナツの中心の円のように、あるけれどない、という形で「古墳」の痕跡を今に伝えているといえる。なお、明治44年以降の地図に表れる道が、今は「古墳」の中央を「横断」している。この時期、塚であることの意味を喪失したのだろう。

さて、地域史講座最終日、参加者の提案で、私たちは下尾久石尊(東尾久6-31-15)を訪れていた(図3)。その際、参加者から声があがった。

「あれ、このカーブも…」
下尾久石尊も古墳参考地となっている(『発掘!あらかわの遺跡展』、荒川ふるさと文化館、二〇一〇年)。勿論諸資料を検討しないこ



図1

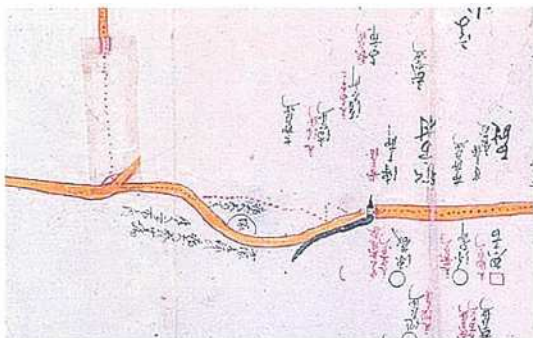


図2 「上尾久村絵図」(尾久八幡神社蔵)



図3 下尾久石尊前の道

とには確定できないが、一行は第二の古墳カーブ発見(の可能性)の喜びを分かちあったのだった。
(亀川泰照)

旧千住製絨所煉瓦塀の修復工事



東京都立荒川工科高等学校の西側に残る煉瓦塀は、通称ラシヤ(羅紗)場、いわゆる官営工場、千住製絨所の記憶を留める遺構です。約70m連続して残っており、貴重な景観を作り出しています。

令和4年度、この煉瓦塀の改修工事が東京都教育委員会により行われました。文化財としての価値を損なわないように配慮しつつ、耐震補強が行われ、同時に汚れや雑草も除去され、煉瓦本来の美しさが現われました。

改めて南千住の近代化を象徴する文化財をめぐって、みれば、何でしようか。



令和5年度 荒川ふるさと文化館の活動と 文化財保護活動

令和5年(二〇二三)

- 4月14日〜6月7日 あらかわ伝統工芸ギャラリー展示「はばたけ！ 若手職人展」
4月22日〜6月4日 館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」
4月23日 あらかわ座(解説・体験) のれん染・片山昭氏
4月20日 第1回区文化財保護推進委員会
5月7日 速報展展示解説
5月10日〜7月20日 庁舎エントランスコーナー(犬張子・田中作典)
5月12日 区指定有形文化財「標柱設置(円通寺)石造七重塔」
5月14日 史跡探訪「小塚原伝承由来の地を訪ねる「石造七重塔を見にいこう」」
5月16、23、30日、6月6日 (全4回)古文书講座「古文书に親しむ」初級編
5月21日 「伝統に生きる」鍛金 福士豊 二上上映会&ミニトーク
5月27日 月イチギャラリートーク
5月28日 あらかわ座(解説・体験) 彫金・田村尚子氏
6月7日 文化財保護審議会(諮問)
6月9日 文化財保護審議会(諮問)
6月9日〜10月11日 あらかわ伝統工芸ギャラリー「展示(金工・諸工芸)」
6月〜9月 博物館実習生受け入れ(9日間・3名)
6月15日 第2回区文化財保護推進委員会
6月18日 あらかわ座(解説・体験) 鍛金・福士豊二氏
6月24日 月イチギャラリートーク
7月6日 南千住図書館合同イベント「七夕おはなし会」
7月7日〜9日 あらかわの伝統技術展(会場:荒川総合スポーツセンター)
7月21日〜10月19日 庁舎エントランス

- コーナー(木版画摺・松崎啓三郎氏松崎浩繁氏)
7月27日 区文化財保護審議会(部会調査)
7月29日・8月26日 夏休み子ども博物館「親子で楽しむ展示解説」
8月3日 夏休み子ども博物館「リトル学芸員」
8月9日 夏休み子ども博物館「俳句を作ろう」(倉澤節子氏・市橋洋子氏)
8月17日 第3回区文化財保護推進委員会
8月19日 夏休み子ども博物館「あらかわ職人道場 指物の技で箸を作ろう!」(指物 根本一徳氏)
8月20日 夏休み子ども博物館「木版画摺の技でポストカードを作ろう」(木版画摺 小川信人氏)
8月30日 文化財保護審議会(部会調査)
9月5日、10月3日、11月7日、12月5日 (全4回)古文书講座「古文书に親しむ」(中級編)
9月30日〜11月5日 企画展「南千住の薬屋さんー疍の妙薬小児活生丸」
9月30日 あらかわ座(解説・体験) 衣裳着入形・竹中温恵氏
9月30日、10月28日 企画展示解説
10月4日〜12月1日 あらかわ学校職人教室
10月7日 企画展関連イベント「飯塚家のアルバム」上映会
10月13日〜3月13日 あらかわ伝統工芸ギャラリー「あらかわの伝統工芸」木工・諸工芸)
10月14日 文化財講座「香具師と売薬」(講師 八木橋伸浩氏)
10月19日 第4回区文化財保護推進委員会
10月20日〜1月19日 庁舎エントランスコーナー(提灯文字:村田修一氏 村田健一郎氏)
10月22日 企画展関連イベント記念シンポジウム「江戸の小さな葉たち」(中山学氏(法政大学兼任教員)多田文夫氏(足立区立郷土博物館学芸員)齊藤智美氏(文京ふるさと歴史館専門員))

令和6年(二〇二四)

- 10月28日 史跡めぐり&観月会
10月29日・11月26日・1月28日・2月18日 地域史講座(尾久編)
10月29日・11月26日 企画展示解説
11月3日・5日・6日 荒川区伝統工芸技術保存会主催「あらかわ座市」
11月3日 「伝統芸能等記録映像」令和の御十夜祭」撮影
11月5日 企画展関連イベント「南千住医跡めぐり」
11月25日 あらかわ座(実演・体験)指物・根本一徳氏
11月25日 月イチギャラリートーク
11月30日 「荒川ふるさと文化館だより」第50号刊行
12月16日 月イチギャラリートーク
12月22日 区文化財保護審議会(答申案)
1月18日 第5回区文化財保護推進委員会
1月23日〜4月26日 庁舎エントランスコーナー(提灯文字・前森宏之氏、勘亭流文字 寄席文字 江戸文字・中村泰士氏、勘亭流文字 寄席文字・銘由由佳氏)
1月27日 あらかわ座(実演・体験)三味線・加藤金治氏 倉橋勝氏
1月27日 月イチギャラリートーク
2月10日 荒川区文化遺産地域活性化推進事業運営委員会主催講演会「三河島山車人形の魅力ー三河島のたからものー」(会場:ゆいの森あらかわ)
2月16日 区文化財保護審議会(答申)
2月17日〜3月31日 62回館蔵資料展「古写真にみる近代あらかわ」
2月24日 館蔵資料展展示解説
2月26日 令和5年度区登録・指定文化財告示「指定無形文化財(工芸技術)衣裳着入形(竹中温恵)」「登録有形文化財(建造物)木造七面明神立像(宮殿(延命院)、有形文化財(歴史資料)出羽三山供養塔(素盞雄神社)、無形文化財(工芸技術)提灯文字(石井達也)」
2月29日 伝統芸能等記録映像「令和の御十夜祭」完成

表彰

- 東京優秀技能者表彰(東京マイスター) 知事賞 桐たんす 村井正孝(区指定無形文化財保持者)
映文連アワード2023ソーシャル コミュニケーション部門優秀賞
「伝統に生きる」鍛金 福士豊二氏(令和4年度作品、文化工房撮影)
東京都広報コンクール 映像部門二席入選 「伝統に生きる」鍛金 福士豊二氏

訃報

- 荒川区登録無形文化財保持者(工芸技術・印章小箱)堀田義久氏は去る令和6年2月3日に逝去されました。(享年88歳)
荒川区指定無形文化財保持者(工芸技術・鍛金)植谷輝明氏は去る令和6年2月8日に逝去されました。(享年81歳)
謹んでご冥福をお祈りいたします。